



大溝の全景（北から）



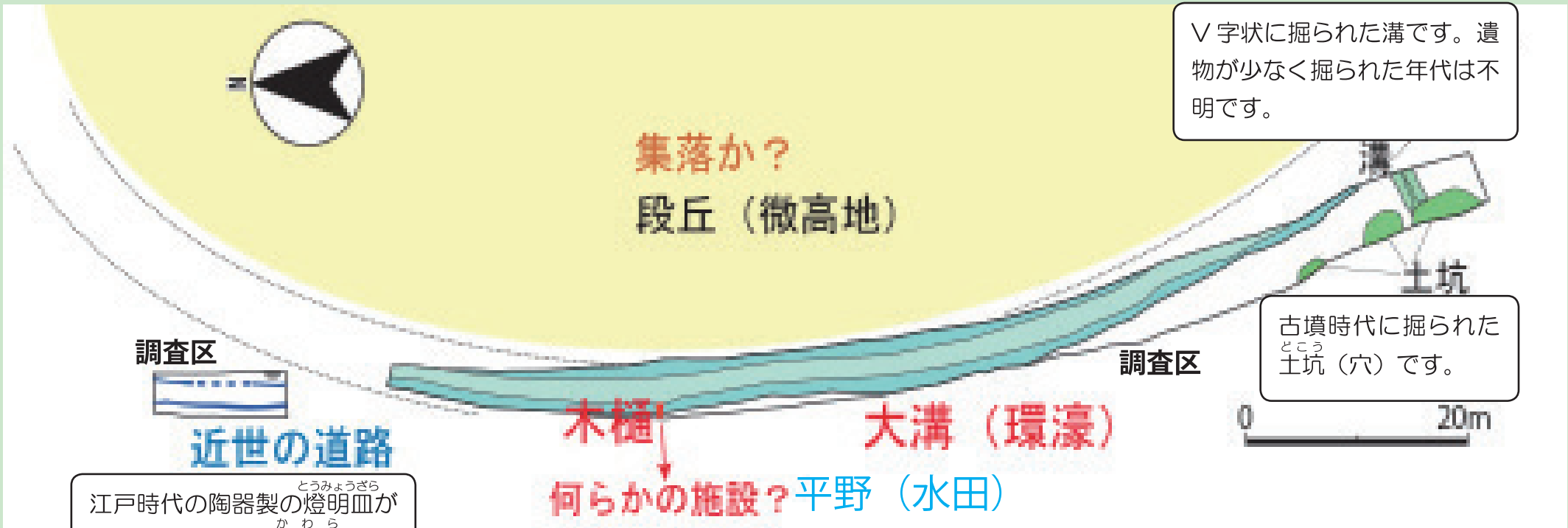
大溝の土層断面



暗渠・木樋の検出状況



大溝と暗渠の向こうに広がる平野
ここに何があったのだろう？



暗渠付近の大溝最下層から出土した土器（廻間Ⅰ式古：2世紀前半）です。大溝と暗渠が作られた年代を示します。



木樋

蓋

本体

ふた 現存長 111cm 幅 26cm 高さ 14cm 厚さ 5cm
本体 現存長 110cm 幅 17cm 深さ 14cm 厚さ 5cm

ヒノキの丸太を、本体は断面を箱形に、蓋は半円状にくり抜いて作られています。蓋の外側はきれいに加工されています。これを組み合わせてパイプ状にして使われていました。

他の遺跡の例から本来は4～5mあったと思われますが、調査区外にのびているため泣く泣く1mほどで切断して持ち帰りました。年代測定の結果、1,800年くらい前のもののようです。

木樋の放射性炭素年代測定（ウイグルマッチング法）結果

資料	分析機関	結果
木樋蓋	A社	西暦59～83年（確率95.45%） 伐採推定年代 1世紀後+数十年
	B社	紀元前20～西暦47年（確率86.4%） 推定伐採年代 1世紀ごろ
木樋本体	B社	西暦14～109年（確率95.4%） 伐採推定年代 1世紀～2世紀初頭

こんな風に考えました

大溝が見つかった

こんなところに環濠を巡らせた集落が眠っていたなんて！
中ノ川の下流域の歴史を見直した。



暗渠が見つかった

環濠にたまった水を排水する仕組みなんて初めてだ！全国初の大発見だ！



木樋を取り上げて

まてまて、排水するだけなら溝を切ればいいだけなはずだ。わざわざ丁寧な加工をした木樋を据えて暗渠にするなんて、この先には特別な何かがあるに違いない。古墳時代の初め頃に木樋を使った遺跡といえば導水・祭祀遺構じゃないだろうか!!



土器などから年代が分かるにつれ

この年代の導水祭祀遺構なら、奈良県の纏向遺跡や大分の延永ヤヨミ園遺跡より古い、最古級になるぞ。大ニュースだ！



反論 まてまて、導水祭祀に用いられるのは清い水。集落の排水が流れ込む汚れた環濠の水を使うはずがないよ。

じゃあいったい何だろう困った？



指導の先生方からの助言

大溝を環濠集落に伴うものと決めつけてしまうからいけないんだ。まずは全国に類を見ない特殊な遺構として大溝の性格を一から見直そう。

そうか、我々は暗渠と木樋の先のことばかり考えていたが、大溝の内側の段丘上に何があったかを調べるこそ大事なんだ。

イマココ

